

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4570600306		
法人名	医療法人向洋会		
事業所名	グループホームあけぼの	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県日向市財光寺1131-24		
自己評価作成日	平成24年7月24日	評価結果市町村受理日	平成24年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570600306&amp;SCD=320&amp;PCD=45">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570600306&amp;SCD=320&amp;PCD=45</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年8月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

家庭的な雰囲気心がけ、ゆっくり過ごせるようにしている。日々の日課を職員や利用者の方と一緒に、会話しながら行っている。利用者様の話を聞き、要望や希望をできる範囲で実施できるように心がけている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者一人ひとりの尊厳を守り、ゆっくり楽しく、入居前に近い生活環境づくりを目指したケアを実践している。利用者の意欲や状態を把握し、できること、やりたいことは否定せず、調理の下ごしらえ、洗濯物を干したり、取り込みたんだり、個々の得意分野が発揮できる場面作りが多くある。管理者が交代したばかりではあるが、職員同志の関係が良好で、理念を柱に統一したサービスを支援している。法人は、病院を母体に、老人保健施設、デイケアサービスも併設されており、連携して支援が受けやすい利点をもっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で、話し合い、実践できる様努力している。		管理者と職員は、理念を介護サービスの指針と位置付けている。利用者の言動は否定せず、一人ひとりの尊厳を大切に支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、法人内の行事参加の呼びかけ等を実施。		法人主催の納涼祭や運動会は、多くの地域住民の参加があり、交流の場となっている。地区のボランティアの受け入れやいきいきサロンに参加したり、地域とのつながりを大切に交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設では実施していないが、併設施設の研修会に声かけし、参加して頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果報告、説明を行い、改善案等の話し合いを実施。また、外部評価の説明等もあわせて行っている。		2か月に1回開催し、家族の参加や第三者委員から改善事項などが提示され、サービスの向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して、働きかけしている。		行政担当者から地域の行事案内の知らせがあったり、ホームからも連絡や相談を密に行うなど、協力関係は構築されている。運営推進会議への参加もあり、意見やアドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。ミーティングや毎日の申し送り等で、随時話し合いや声かけを実施している。月1回、自施設での検討会等も実施している。		身体拘束の弊害については、ほとんどの職員が理解している。利用者への言葉かけなど、気になることはその都度注意している。環境面では、危険を回避するために、正門や玄関の施錠が常態化しており、具体的な行為への認識が不足している。	再度、利用者の状態を踏まえた上で、施錠の必要性や是非、不安材料などについて、職員全員で検討を行い、鍵を掛けないケアへの取組に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、申し送り等で随時実施している。月1回、自施設にて検討会を実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて実施している。また、施設の玄関等にパンフレット類を設置している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学時に、当施設の説明や家族の方の話を聞くようにしている。利用者の方には、体験にて過ごして頂く事もあり、希望や不安な事を随時聞くようにしている。家族の方や本人に、納得されたうえでの契約を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方や利用者の方の話をよく聞き、随時解決している。運営推進会議を利用している。利用者の方には、職員とお茶を飲みながら話し合いを行い、意見や不満、心配事を聞くようにしている。		日ごろ、家族の来訪が多く、利用者を交えてゆっくり話を聞く機会を設けている。意見、要望は運営推進会議で多く出され、納得できるような話し合いがなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにての話し合いを実施し、併設施設にて、月1回の定例会で話し合いを行っている。		月1回の定例会では、職員各自から1か月の反省や提案、意見などを出し合い、全員で話し合いをしている。要望や解決できない問題は、法人の合同定例会に出しているが、すぐに解決できない問題もあり、職員が納得できるような説明、回答がない場合もある。	代表者・管理者に対して、職員の意見や提案を提示する場はあるが、改善に向けた取組を行うため、一緒に話し合う機会を設けるなどの工夫を検討していただきたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内の統一された就労条件や働きやすい環境になるよう努力している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が入社時に、随時実施している。法人や併設施設での研修会への参加や自施設での勉強会の実施。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時などに情報交換を行い、業務に生かせるよう努力している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ケースワーカー、ケアマネ、職員が家族の話をよく聞き、情報を収集したり、本人と話し、要望、困っている事に対し、出来る範囲で対応を行っている。不安な事に対しては、その都度話を聞き、不安事の軽減に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、当施設を見学して頂き、家族の方の要望や困っている事について、話し合いを実施している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントして、必要な支援を実施している。相談事に応じた職種の方との話し合いや各サービスの紹介を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気作りに気をつけている。家事作業や日課のなかで、教えて頂いたりしながら過ごしている。色々な場面で、それぞれの役割で、日課を職員と一緒にやっている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、一緒にお茶を飲みながら、日頃の様子を話したりして、情報の交換を実施している。家族の方や本人の話をよく聞き、中立の立場での働きかけを行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、定期的に電話して頂いたり、面会時、ゆっくりと過ごして頂けるように心がけている。	なじみの人には、本人が電話をしたり、年賀状を出すことで、近況を知らせている。以前働いていた職場の友人が来たり、故郷の広報誌が送られてくるなど、関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活のなかで、利用者様同士が、一緒に活動できるように常に気をつけている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、遊びに来られたり、相談等に随時対応を行っている。(暑中見舞い、年賀)			
<b>Ⅲ. そのらしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方が話しやすい雰囲気作りに気をつけている。随時情報の収集を行い、職員で共有し、毎朝の申し送り、ミーティングにて検討し、実施できるようにしている。また、場合によっては、関連職種の方との話し合いを行い、検討し、出来る範囲での実施。	日常の会話を通して、思いや希望の把握に努めている。困難な場合は、居室でゆっくりと話をしながら、思いを引き出す工夫をするなど、思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サマリー、アセスメント、家族様、ケースワーカー、ケアマネとの連携により、努めて実施している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り時に、体調、睡眠、食事摂取量等、心身の状態確認を行い、毎日の日課を本人に合わせて、実施できるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月、6ヶ月のモニタリングを実施し、評価している。本人には、随時聞き取りを行い、家族様にはその都度説明している。	担当職員が、本人や家族とのかかわりの中で、日々の気づきを記録しており、それを基に、本人本意の計画になるよう、ケア会議の中で話し合い、作成している。定期的および随時の見直しも実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアチェック、個人別記録、毎朝の申し送り、ミーティングにて、情報の交換や話し合いを実施。必要に応じて、随時検討会を実施。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の協力にて実施している			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園、温泉、理・美容等の利用を行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の方、本人の希望を重視している。緊急の場合、併設病院にて、迅速な対応が行えている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設、病院の看護師に相談し、協力して頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報の提供、その都度、状態に合わせて話し合いを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアは実施していないが、それに準ずるケアを行い、随時家族の方、医師、ケースワーカー、ケアマネ、職員での話し合いを行っている。		ホームが重度化、終末期のどこまでを対応・支援していくことが可能であるのかを明確にすることで、利用者・家族の安心につながるとされる。家族や掛かりつけ医を交えて話し合い、方針の共有に向けた取組を期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を実施しているが、色々なケースにスムーズに対応できるよう、今後も継続して行きたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の併設施設、病院の協力による避難訓練の実施(併設の協力体制が整っている)。運営推進会議で、地域の方への働きかけを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心掛けているが、不十分な場合もある。		利用者の生活歴、職歴を尊重し、一人ひとりに応じた声かけが行われている。個人情報についても、利用目的などが重要事項に明記され、慎重な取り扱いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思決定を重視し、行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務上困難な事もあるが、その日の体調や状況に合わせて、過ごして頂いている。毎朝一人ひとりに挨拶し、本人の希望や話を聞くように心掛けている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの理・美容店や衣類を購入したり、本人の希望を聞き実施している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時、利用者の方と一緒に作成したり、好みのものを取り入れるようにしている。職員と一緒に、食事の準備を行っている。		利用者の希望を聞きながら、野菜切りや米洗いなどの下ごしらえ、下せんなど、力量に応じたかわりができるよう支援している。食事を取りながら、食材・調理法などの話題も出ることがあり、一人ひとりが楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを行い、その日の状況や必要に応じ、補助食品を使用している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に合わせて声かけを促し、介助を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを行い、状態を把握、検討し、状況により定期的なトイレの声かけ誘導、失禁パンツ(布、紙)、オムツ類を使用している。	ほとんどの利用者が、昼夜問わず布パンツを着用しており、トイレでの排せつ支援を行っている。各居室にトイレがあり、排せつの自立にもつながっていて、尿取りパット使用の利用者も、サイズが小さいものになってきている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に対し、食材、水分補給、運動量に配慮している。医師へ相談し、指示を得ている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	勤務体制上、本人の希望する時間に対応できない場合もあるが、出来る限り希望に沿うよう心がけている。本人のペースに合わせて対応している。	週3回の入浴としているが、一番風呂の希望や個々のタイミングに応じた支援をしている。拒否のある場合は、時間を置いたり、翌日に入浴支援をすることもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人に合わせた睡眠時間の確保、状況に応じて休息を促し、休んで頂いたり、ゆっくり過ごせるように配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は行っている。ミーティング実施時、勉強会をしている。臨時薬の場合は経過を追っているが、不十分な事も多い為、今後も勉強会を実施していく。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割があり、日課、レクリエーションの参加をされている。個人ドライブ、外食等の希望を聞き、行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	不十分ではあるが、本人の希望を取り入れ、個別の対応を行っている。	家族の協力で、買い物や食事に出かける利用人もいるが、日常的に戸外へ出かける機会が少ない。	敷地内にある法人の売店への買い物や、庭の畑の野菜収穫など、近場への外出支援から計画していくことを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はいない為、本人管理は難しい。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、随時行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出せるような工夫を行っている。可能なかぎり環境の整備を行っている(明るさ、目印、音量、室温)。		室温、換気なども配慮され、台所にも自由に出入りできるよう、家庭的な工夫がされている。時には、利用者も一緒に掃除を行うなど、清潔の保持にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、廊下に椅子を置いたり、環境を出来る範囲で整備している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に働きかけしているが、造りつけの家具等があり、できる範囲で行っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ等には目印をつけている。個人の状況に応じて、トイレ内に尿パットを設置したりしている。			